



全国  
家康公  
ネットワーク  
SINCE 2015

# 第2回徳川家康公文コンクール 静岡県小中学生の作品21編を表彰

公益財団法人徳川記念財団(徳川

恒孝理事長)は平成28年7月〜9月、

静岡県内の小中学生を対象とした

「第2回徳川家康公文コンクール」

を開催。424編の作文が寄せられ、

審査員10名(審査員長…中村羊一郎

氏)が、21編の入賞作品を選びました。

表彰式は12月16日(金)、しずぎん

ホール「ユーフォニア」で開催し、入賞

者に賞状と記念品を渡しました。

入賞者と最優秀作品「徳川賞」を

受賞した作文は次の通り。

## 〔入賞者〕(敬称略)

〔徳川賞〕高井瑞樹「家康賞」尾白万苗、  
佐俣峻介「徳川みらい学会賞」池ヶ谷海  
〔静岡県知事賞〕大杉明日香「静岡市長  
賞」杉本紗英「浜松市長賞」鈴木貴太  
〔静岡県教育委員会教育長賞〕志村那緒  
〔静岡市教育長賞〕小林瑞希「浜松市教  
育長賞」長谷川大智「静岡県私学協会  
会長賞」林貴美「静岡県商工会議所連  
合会会長賞」光久美咲「静岡商工会議  
所会頭賞」大城綾音「浜松商工会議所  
会頭賞」牧田小莖花「静岡新聞社賞」鶴  
見梨菜「静岡放送賞」松永凜果「中日  
新聞東海本社賞」鈴木野々葉「NHK静  
岡放送局長賞」山本奈実「テレビ静岡  
賞」佐藤百優「静岡第一テレビ賞」小林  
華帆「静岡朝日テレビ賞」谷孔作

## 〔徳川賞〕

「本を愛し続けた家康公」



高井瑞樹さん  
(静岡市立  
安東中学校1年)

戦国大名の中でも二二を争う『読書家』だったと伝えられる家康公。生涯にわたり、本を愛し続けた名言、

「世の物事がどうあるべきかを教え、あるいは知るには本しかない。物事の正しい筋道をみんなが分かれば、世は治まり、戦いがおきる事はない。」

これには、戦国乱世を制し、二六〇年以上続く長期安定政権の礎(いしずえ)を築いた家康公の強い信念や読書を通じての平和な時代への願いを感じとることができる。

そして、スマホやパソコン等、ネット社会が進み、読書離れが加速する昨今だからこそ本を糧(かて)とし、自らの決断で運命を切り開いていった家康公に学ぶことは多いと思ひ、身近なことから調べてみることにした。

まず、わずか八才で始まった今川家の人質生活。故郷や親元を離れた寂しさを紛らわすかのように、夢中になつていった

本の世界。

臨濟寺の「竹千代手習いの間」という四畳半の小さな勉強部屋で、今川氏の軍師としても活躍していた雪斎の教えを受けながら、兵法を学んだと記されている。僕は、実際に見学したことがあるが、むだな物は一切なく、研ぎすまされた空間のように感じた。

兵法の本から、兵の動かし方だけでなく、大将としての心構えを学び、儒学や易学、医学など、本への興味をますます広げていった。

雪斎は、そんな家康公を「将来、大活躍するだろう。」と、ほめたたえた記録で伝えられている。

同時に、自分の人生の目標となる源頼朝の生き方が描かれた「吾妻鏡」にも出会うことができた。家康公は、目指す武将としての未来像を頼朝に重ね、心の支えとしたのだと思う。

明日の命の保証はなく、常に危険となり合わせだった戦国時代。生きのびることで精一杯だった日々において、どのようにしたら、戦を切り抜けることができるか、人々の心を動かすことができるかを全力で考え、いつも参考にしていたのは「論語」「孟子(もうし)」などに記されていた中国の格言だったようだ。

時がたち、一六〇〇年、関ヶ原の戦いで、

勝利をおさめ、天下人となる。

すると、長年の夢である「日本一の図書館」を作ることに動き出した。国中から優れた書籍を買い集めることはもちろん、中国や朝鮮伝来の本も収集し、側近達が自由に読めることを実現したという。

さらに、公家や僧侶たち一部の人が独占してきた貴重な本を三部写させ、朝廷、幕府、家康公図書館と、万が一、火災にあつたとしても、いずれか一冊は後世まで残ると考え、書籍の保護策がとられた。

これには、家康公の本への深い愛着が感じられ、胸がジーンとした。

また、大御所となつた後、再び駿府に戻り「駿河文庫」を作つた事実から、僕は、家康公が、つらい思い出ばかりでなく、第二の故郷としての安らぎやなつかしさを静岡の地に感じているような気がした。

晩年、全ての情熱を傾けたと言われている本の出版業。特に「群書治要」は、手元に集められた六十以上の書籍から、政治を行う上で参考になる言葉を抜粋したもので、多くの家臣達に読んでもらいたいという願いがあつたようだ。この本を広めるために、当時最新の銅製活字を用いた印刷技術を導入したりと、かなり精力的に働きかけたことが分かる。それを、当時の静岡の人達が拜見できているなら、誇らしい気持ちになる。

家康公の残したメッセージに思えた「読書は己を成長させる」、これを心にとどめて、知識を増やしていくことを努力しようと思う。そして、人生の目標となる本に出会えることを願いたい。